

## 活動のアルバム 馬頭琴のミニコンサート

10月3日（火）中山市民センターに於いて、中山地区社会福祉協議会、中山赤十字奉仕団共催の馬頭琴のミニコンサートが開催されました。以前は各福祉区で年に数回開催していたサロンが、コロナ禍で令和2年より開催できなくなりました。今回、新型コロナウイルス感染が沈静化し、5類になったことから、広いホールで感染防止を図ったうえで、5福祉区合同の開催としたものです。昨年開催した合同コンサートでも評判が良く、今年は観客数を昨年よりも増やし、中山地区全体で120名として、回覧版でも紹介しました。

事務局の話では、人気が高く締め切り日よりかなり早い時点で、予定人数を越えたようです。当町内会からは13名の方が参加されました。

演奏者は中国内モンゴル人ですが、来日してから20年以上経過していることから、日本語が堪能で演奏内容の他、遊牧民の生活なども日本語で説明し、日本の音楽も全曲の1/3ほど演奏して頂きました。ほとんどの人が初めて聞く馬頭琴の演奏や、内モンゴルの話に耳を傾け、楽しい時間を過ごしました。



齋藤地区社協会長の挨拶



大勢の観客



演奏者アナンディン・バヤラト氏



馬頭琴の起源伝説の読本



踊りと演奏



演奏終了後花束贈呈

### ◇ 馬頭琴とは・・・◇

馬頭琴は、モンゴル民族の二弦擦奏弦鳴楽器であり、頂上に馬の頭部の彫刻を配した楽器です。

馬頭琴は、内モンゴルではモリン・トルゴイ・ホーレ、外モンゴルではモリン・フール、ヒル・フールなどと呼ばれています。

竜をあしらったものや頭部に何も付けていないものもあります。馬頭琴の弦や弓は、馬の毛を束ねた物を利用しており、愛馬の死を悼んで作られたという起源伝説も存在します。

日本では、小学校2年生の国語の教科書で習う起源伝説に基づくお話『スーの白い馬』でよく知られています。

台形木製の胴体の表側には馬皮または薄板が張られており、これによって響きが豊かになっています。

